令和元年度 第１回取掛西貝塚調査検討委員会議事録

[日　時]　令和元年５月 20 日（月曜日）　午後３時 00 分　開始
[場　所]　船橋市役所　本庁舎７階　701 会議室
[出席者]　委　　員：阿部芳郎委員長、樋泉岳二副委員長、堀越正行委員、谷口康浩委員、佐々木由香委員
オブザーバー：永塚俊司千葉県文化財課主任上席文化財主事
事　務　局：三澤生涯学習部長、大屋文化課長、牟田郷土資料館長、道上文化課長補佐、石坂埋蔵文化財調査事務所長、栗原郷土資料館長補佐、白井埋蔵文化財保護係長、白﨑主任主事、植木主任主事、永塚主事、早坂主事、松本主事、箱石主事、畑山飛ノ台史跡公園博物館学芸員
[挨　拶]　三澤生涯学習部長

阿 部 委員長：　はじめに、オブザーバーに出席いただいていますので、一言ごあいさつなどお願いいたします。

オブザーバー：　取掛西貝塚については３年目で学術調査の最終年度ということで、遺跡の価値を上げることを念頭に、やり残しのないよう調査をし、来年度の総括報告書作成と意見具申に向けて進めていただければと思います。

阿 部 委員長：　ありがとうございました。はじめに、船橋市情報公開条例第 26 条の規定により、船橋市の設置する附属機関の会議は原則公開とされていることから、傍聴人の受付をしましたところ、本日の傍聴人の希望はなかったことをご報告いたします。

それでは議事の進行に移りたいと思います。１点目の議事「令和元年度調査計画について」事務局より説明をお願いします。

事　務　局：　令和元年度調査計画について、事務局よりご説明いたします。

６月中旬（１０日ごろ）より機材搬入し、１７日頃から重機で掘削を開始し、人力掘削での調査をする予定です。

最初は、芝山西小学校・芝山東小学校の体験事業予定があるため、そのスケジュールを考慮して、１－３トレンチから掘削します。

次に、１－１トレンチを掘削して縄文時代早期の竪穴住居跡の有無を確認します。ここで良好な花輪台式期の竪穴住居跡があれば、住居構造を明らかにするため精査の対象とします。見つからなければ、２トレンチの花輪台式期の竪穴住居跡を精査します。これらと並行して、または終わり次第１－２トレンチを掘り、遺構の広がりを確かめます。最後に、３トレンチで縄文時代前期の竪穴住居跡を掘ります。

なお、１－１トレンチで良好な竪穴住居跡が見つかった場合、２トレンチについては竪穴住居跡の調査をしないことになりますが、その場合にはトレンチ北端でみつかった井草式期の遺構について、土坑なのか竪穴住居跡なのか平面プランを確認します。

堀越　委員：　１－２トレンチ含めて、遺物の散布状況はどうですか。遺構があるという見通しは、あらかじめあるのですか。

事　務　局：　１－２トレンチの畑は土器の散布はなしという状況です。しかし、耕作されていないので、掘ってみなければわかりません。

阿部 委員長：　指定範囲の候補として含めていることもあるので、今回トレンチを入れるものと考えます。

少し気になるのは、１－３トレンチが最初で、次に１－１トレンチ。その後に竪穴住居跡と進みますが、１－２トレンチはいつ掘るのですか。

事　務　局：　１－１トレンチと並行して掘ります。

阿部 委員長：　最後は竪穴住居跡の調査に集約していくということでしょうか。

事　務　局：　その通りです。

阿部 委員長：　わかりました。

堀越　委員：　前回で希薄だった部分を確かめる、その点は概ね達成されると思います。貝の当たりはどうですか。

事　務　局：　縄文時代早期は当たらないと考えています。今回の調査予定範囲では、３トレンチの縄文時代前期の竪穴住居跡で、貝層がみられるという状況です。

阿部 委員長：　１－１トレンチ北について、堀越委員からトレンチを入れてほしいという提案が、以前ありましたがどうですか。

事　務　局：　竪穴住居跡の精査を行う期間に加えて、９月中に現状復帰してお返しするので、期間を考慮すると難しいです。１－１トレンチを北側に延長して、できるだけ北部の状況を調べたいと考えます。指定後も研究を継続していくことを考えているので、以後の課題としたいと思います。

阿部 委員長：　谷口委員はいかがですか。

谷口　委員：　台地上の遺構分布ももちろん大事ですが、遺物量の多い少ないといった情報も重要です。トレンチを１ｍごとに区切って把握するなど、これまでの調査方法で採っていましたか。

事　務　局：　包含層が明瞭に残っているトレンチがあまりないという状況でした。平成２９年度調査の１１トレンチでは包含層がありましたので、その範囲内は区切ったかたちで調査しています。また、部分的にサブトレンチで掘った部分で遺物をドットで取り上げていますが、飛び飛びの位置関係なので、明確

には示せないところです。

谷 口　委 員：　遺物分布の粗密が把握できるとさらに良いと思います。

阿 部 委員長：　グリッド単位では取り上げているのですか。

事　務　局：　耕作土の中から出た遺物については、トレンチごと一括で上げています。

阿 部 委員長：　遺構があるところに遺物が多いという状況ですね。

事　務　局：　その通りです。

谷 口　委 員：　篩（フルイ）がけはしていますか。

事　務　局：　耕作土の中までは、篩（フルイ）がけしていません。

佐々木 委 員：　１－２トレンチのうち、南北方向に伸びるトレンチは、長さ１０ｍの設定では、（遺跡の時期における）台地と谷の関係を捉えるのが難しいのではないでしょうか。削られていた場合、台地から斜面に向かってどのように地形が落ちていくか、把握できるかどうか。

阿 部 委員長：　現地の状況はどうですか。

事　務　局：　当初は東側で南北方向のトレンチ設定を考えていましたが、隣地との間が段差になっています。また、東側は削られている可能性が高い状況でした。そこで、よりよい保存状態の地点と考えられる西側に変更して設定することにしました。

樋泉副委員長：　１０ｍ以上、南北に伸ばすことはできますか。

事　務　局：　交通量の多い道路に面しており、北に伸ばすことは安全面を考慮する必要があります。

阿 部 委員長：　撚糸文土器期には、神奈川県域だと斜面でも竪穴住居跡が出ますね。

谷 口　委 員：　小金井市（はけうえ遺跡）でも、斜面で竪穴住居跡が何棟も出ています。

阿 部 委員長：　土地利用の現状もあるとは思いますが、安全を確保した上で、なるべく南北方向に伸ばす方向で検討いただきたいですね。

佐々木 委 員：　台地の短軸（南北）方向の地形と、本来の堆積状況が復元できるとよいと思います。

阿 部 委員長：　地形図では、１－２トレンチがそれを唯一復元できそうな場所ですね。

佐々木 委 員：　層位を３・２・１トレンチと通すようにするとよいと思います。

阿 部 委員長：　現地でよく検討してください。

阿 部 委員長：　竪穴住居跡の調査、事前準備はいかがですか。

佐々木 委 員：　また、遺構の土壌サンプリング計画はどうなっていますか。

事　務　局：　縄文時代早期の竪穴住居跡については、十字に設定したベルトのうち一本だけ残します。外す方のベルトを土壌サンプリングできればと考えており、土層単位で取り上げたいと考えています。

阿 部 委員長：　その方法であれば、ベルトにセクションを引いてあるので、土層別に分けてサンプリングできると思います。

佐々木 委 員：　縄文時代早期の貝製品は回収できますか。

樋泉副委員長：　１－１トレンチでは縄文時代早期の貝層は出ないと予想しています。あくまで予想ですが。

阿 部 委員長：　縄文時代前期の住居跡の貝層は、全量サンプリングということでよいですか。

事　務　局：　そのように考えています。

阿 部 委員長：　佐々木委員、炭化物の回収を考えた場合、その方法でよいでしょうか。

佐々木 委 員：　縄文時代早期の竪穴住居跡はどこまで調査しますか。床面と炉の覆土は回収した方がよいと思います。床面の上５㎝くらい残して、５０㎝メッシュで採取するのが望ましいですね。

事　務　局：　炉の内部は完掘して、土壌は全量サンプリングする考えでいます。

佐々木 委 員：　床面の土は回収しないのですか。数ｃｍでよいのですが。

阿 部 委員長：　床面がよいということですか。

佐々木 委 員：　炉の中は灰しかないこともありますし、縄文時代前期では炉の周囲に炭化物が散らばっていることもあります。縄文時代早期は分かりませんが、せめて炉の周辺の床面の土壌だけでも採取できないでしょうか。縄文時代早期では炭化物の出土状況のデータ蓄積がありません。可能なら炉の周囲を１ｍほど、メッシュを張って採取するとよいと思います。土嚢半袋でもお試しに採取して現場で水洗して、成果が出れば土壌

採取範囲を広げるというのはどうでしょうか。炉周辺の炭化種実の分布をみた方がよいと思います。

事　務　局：　そもそも炉を検出できるかということもありますが、検討したいと思います。

阿 部 委員長：　詳細な採取方法は、現地視察で決定してもよいのではと思います。

阿 部 委員長：　谷口委員、縄文時代早期の竪穴住居跡は、構造の復元が今後必要となることを考えると、竪穴住居跡内のピットはどうすればよいと考えますか。

谷 口　委 員：　保存しないならば、遺構の断ち割りをやって、個々のピットで判断しないと難しいと思います。ただし、その方法では竪穴住居跡を壊してしまうことになります。遺構を壊さずに復元するには、ピットの位置関係から上屋を復元するしかない。思い切って断ち割ると、柱の太さや根固めの仕方など情報を得られますが、床面を壊してしまうので難しいところです。

阿 部 委員長：　全部のピットを断ち割るのは無理ですが、覆土でパターンを分けて、パターンごとにいくつかだけ断ち割るというのはどうでしょうか。

オブザーバー：　構造を把握するためということであれば、一部は断ち割りも必要かと思います。全て断ち割るということになると保存関係の調査では難しいです。

一部なら問題ないと思います。

阿 部 委員長：　目的・方法を決めてピットの一部を断ち割ってはどうでしょうか。

谷 口　委 員：　昔使っていたような検土杖、ボーリングステッキでピットの覆土を一部取るのはどうでしょうか。

佐々木 委 員：　ボーリングステッキは今も使われていますね。

事　　務　　局：　埋蔵文化財事務所にもボーリングステッキがありますので、平成２９年度の調査で使用してみました。しかし、色の違いが微妙で判断が難しく、実際にサブトレンチを掘ってみると、結果としては参考にならなかった経緯があります。深さの把握も難しく、できれば断ち割りがよいと考えています。

阿 部 委員長：　現場の調査が進んだら、現場で作業部会を開き、視察したうえで議論しましょう。

阿 部 委員長：　貝塚についてはどうしますか。

樋泉副委員長：　３トレンチの縄文時代前期の竪穴住居跡は、貝を全量サンプリングする方向性であると事前に聞いています。その際に聞いているのは、周囲の土を貝層と一緒に残して、貝層と一緒に断ち割って土層と貝の堆積状況をおさえることが、新しい試みといえます。

堀 越　委 員：　先ほどの話ですが、斜面に遺構はあるのかないのか、空間的に調査が厳しいのであれば壺掘りというのはどうですか。

阿 部 委員長：　トレンチではなく、断続的な壺掘りということですね。テストピットで命綱をつけて・・・というのは冗談ですが、テストピットはよいと思います。

樋泉副委員長：　それをやって、遺構が出た段階でストップする。

阿 部 委員長：　サブトレンチは入れるのですか。

事　　務　　局：　状況に応じてと考えます。前回まではトレンチャーの掘削による攪乱が入っており、その部分が結果的にサブトレンチの役割となりました。しかし今回は恐らくトレンチャーによる掘削はありません。谷口委員から以前ご指摘いただいた、本当に竪穴住居跡なのか、という遺構については、サブトレンチを入れることや、半截などの手法で、一部精査して対応したいと考えています。

阿 部 委員長：　時期が分からない遺構は、最低限サブトレンチを入れて時期を確定させる必要があります。

事　　務　　局：　極力サブトレンチを入れて時期を確定させます。

阿 部 委員長：　お願いします。

阿 部 委員長：　続いて、２点目の議事「スケジュールについて」事務局より説明をお願いします。

事　務　局：　スケジュールについて、事務局よりご説明いたします。

昨年度実施した取掛西貝塚のボーリング調査について、６月７日に植物考古学・古環境作業部会を実施し、ボーリングコアの検討・分析の方針について協議いたします。

６月１０日には今年度の取掛西貝塚確認調査を開始いたします。先ほど事務局から説明しましたとおり、実際の掘削については６月１７日ごろからの予定です。

８月上旬、５日の週には、第２回取掛西貝塚調査検討委員会を開催予定です。この際には、調査現場の視察を併せて実施予定です。また、同じ週には、発掘調査現場において、記者説明を予定しています。調査は９月末に終了する予定です。

また、８月から９月にかけて、取掛西貝塚の周辺における自然環境の復元に向けて、ボーリング調査を実施したいと考えております。調査の対象とする場所や時期などについては、調整中です。

令和２年１月には、第３回取掛西貝塚調査検討委員会を開催予定です。内容につきましては、令和元年度の調査成果を報告するとともに、今後刊行予定の総括報告書について協議を予定しています。

令和２年３月１４日には、令和元年度　取掛西貝塚　調査報告会を開催予定です。佐々木委員に講演いただくほか、元文化庁主任調査官で、現在は大阪府立弥生博物館館長の禰冝田佳男さんに講演いただく予定です。会場は船橋市勤労市民センターを予定しています。

このほか、日本考古学協会において、取掛西貝塚調査概要報告書を配布するほか、動物考古学会において、樋泉副委員長から調査成果を発表する予定です。

スケジュールについての説明は、以上です。

樋泉副委員長：　確認ですが、実質的には６月後半から８月末までの発掘ということでよいでしょうか。

事　務　局：　その通りです。

佐々木 委 員：　大学生の発掘調査参加への声がけはどうなる予定ですか。

事　務　局：　今年度も声をかけていきます。ただし、面積規模が小さくなりますので、どういうかたちで来てもらうかは検討中です。

阿 部 委員長：　おおよその人数はどれくらいですか。

事　務　局：　２５人か、それより若干少ないくらいです。

阿 部 委員長：　遺構内の調査は複雑となりますので、初心者ではなく、ベテランの方などを配置するよう気を付けてほしいと思います。

樋泉副委員長：　８月５日の週に検討委員会の開催というスケジュールですと、実質的な

調査終了まで半月しかありません。サンプリングの手法を検討するタイミングとしてはちょっと遅いと思います。もう少し早く、委員会と別のかたちで方針を決められないでしょうか。もしもミスするとフォローできる余裕がありません。できれば調査の真ん中、遅くても７月下旬で合同作業部会を１回やらないと危ないと思います。情報交換をマメにしたいと考えますが、いかがですか。

事　務　局：　作業部会方式で場を設定したいと思います。

阿 部 委員長：　小規模なワーキンググループで議論した方がよいと思います。また、やるとしても、現場をどういう状況にもっていけばよいのか、そういった条件付けも必要になります。その点は後で日程調整したいと思いますので、ひとまずここでは、作業部会で検討するということで、委員の皆様にはご承認いただきたいのですが。

各　委　員：　異議なし。

阿 部 委員長：　最後に、「その他」に移りたいと思います。事務局から連絡があればお願いします。

事　務　局：　整理作業の進捗について報告します。報告書のうち、「取掛西貝塚（５）－Ⅱ」について、アナログ作成した図面をデジタルデータ化するためのスキャンを５月中に終了します。こちらについてはデジタル化することで、総括報告書での転用をしやすくしたいと考えています。その後、１０月末にはデジタルデータ化が全て終了する見込みです。また、総括報告書の作成に向けて、第６次・第７次調査の図面修正を行うほか、関東近県の事例の収集を行っています。一昨年に実施した第６次調査分は石器の分類・選別が終了しています。第５次調査分は作業中、第７次調査分は終了しておりません。

　このほか、多量種実圧痕の可能性ある土器について、佐々木委員の取り計らいがあり、熊本大学の小畑弘己先生により、土器圧痕の CT 解析を実施していただくことになりました。対象は取掛西貝塚の縄文時代早期の土器２点です。スケジュール等の詳細は今後ご案内します。その他の圧痕分析については、佐々木委員と相談します。

阿 部 委員長：　各委員からは何かありますか。

佐々木 委 員：　１個体の土器に複数の種実圧痕があるのは今のところ、西関東や中部高地で縄文時代前期中葉以降です。縄文時代早期は今まで見つかっていません。驚愕的な内容です。こんなにあるのか、という状況なので、ぜひとも続けてほしいと思います。続けたら続けただけ成果が出るのは間違いありません。

阿 部 委員長：　佐々木委員、縄文時代前期の土器はどうですか。

佐々木 委 員：　縄文時代前期も圧痕はありますが見た個数は少ないです。縄文時代前期はシソ属だけです。縄文時代早期はシソ属やマメ類などの圧痕がセットで出ています。

佐々木 委 員：　学生の動員についておたずねします。種子のフローテーション、篩がけなど、現場と並行しての作業・調査はできると思うのですが。

事　務　局：　検討したいと思います。学生が来られる日が少ないと難しさがありますが、考慮して、やれる形を考えたいと思います。

佐々木 委 員：　大学の授業で種子のフローテーションをやってきている学生もおり、意欲があると思いますので、ぜひ機会を与えてあげてほしいと思います。

阿 部 委員長：　最近、植物考古学は人気がありますので、やれるとよいですね。そうした作業を現場でやれれば、持ち帰る土の量も減らせます。作業内容ごとに分けて募集するなどどうでしょうか。学生へ声をかけるときに説明するとよいかと思います。

事　務　局：　検討したいと思います。

堀 越　委 員：　ボーリング調査は今年もやるのでしょうか。

事　務　局：　具体的な場所は探しているところです。前回見送った地点について、可能であれば候補に入れたいところです。

堀 越　委 員：　シジミをどこで採っていたのか知りたいです。できるだけ海に近い方の地点で、深いところをとらえたいところです。

阿 部 委員長：　予算はどうですか。

事　務　局：　深さ３０m以上となると、予算としては厳しいところです。

堀 越　委 員：　早期の海岸線の指標となるカキ礁が、浦安では４０mくらいだったので、低いところから掘ればできるのではないでしょうか。市役所のあたりはどうですか。

佐々木 委 員：　３０mまでなら機械ボーリングが可能です。

樋泉副委員長：　そのくらいで海の影響が入ってくるところですね。

堀 越　委 員：　本来の目的は縄文時代早期に海がどこまで来ていたかというところだったはずです。海進時の海は、川の中を貝がなくなるまで見ていくとわかるかもしれません。

事　務　局：　６月７日にボーリングコアの検討会をやりつつ、どこをボーリング調査するかは詰めていきたいと思います。

阿 部 委員長：　その辺も含めて、ボーリングコアの検討会では、出席予定の遠藤邦彦日本大学名誉教授に、縄文時代早期の海水面はどこまでか検討いただきたいです。ボーリング箇所をよく検討する必要があります。

樋泉副委員長：　沖積層の基底図は確認していますか。基底データを収集してください。絶対に必要になりますので。

阿 部 委員長：　オブザーバーからは何かありますか。

オブザーバー：　令和２年度に向けて総括していけるよう、できること、できないことを決めて整理しつつ収束していただきたいと思います。

阿 部 委員長：　以上で令和元年度　第１回取掛西貝塚調査検討委員会を閉会いたします。

各　　委　　員：　ありがとうございました。